

疫学情報 2017年7月19日分

<http://www.city.sendai.jp/kenkoanzen->

[kansen/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/kansensho/h2907kekkakushudan.html](http://www.city.sendai.jp/kenkoanzen-kansen/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/kansensho/h2907kekkakushudan.html)

結核の集団感染について

仙台市健康福祉局健康安全課

平成29年5月、市内で結核の初発患者（発病有）※1が発生し、関係者に対する調査および接触者の健康診断を行いました。この結果、これまでに2人の結核患者と14人の潜在性結核感染症患者（発病無）※2の届け出があり、結核の集団感染と確認されました。

結核の集団感染の定義（平成19年3月29日付厚生労働省結核感染症課長通知）：「同一の感染源が、2家族以上にまたがり、20人以上に結核を感染させた場合」とされています。感染者数（発病者については1人を6人の感染者に相当するとして計算）が20人を超えた場合に発表します。（今回の感染者総数は26人）

初発患者の詳細	
1.性別・年齢	女性・30代
2.職業	学生
3.発病日	不明
4.病院診断日	平成29年5月8日（月曜日）
5.初発患者発見動機	医療機関受診
6.感染経路	不明

若林支所等でこれまでに初発患者の接触者129人（初発患者の所属していた学校およびアルバイト先等）に対して接触者健康診断を実施した。この結果7月3日までに、2人が肺結核、14人が潜在性結核感染症（発病無）と診断され、外来治療中

<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000170917.pdf>

事務連絡 平成29年7月11日

都道府県 特別区 各保健所設置市 衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

ダニ媒介感染症に係る注意喚起について

ダニ媒介脳炎については、平成28年8月10日付け事務連絡にて、北海道において23年ぶりに国内2例目となる患者の発生が確認されたことについて、情報提供を行ったところですが、今般、北海道において国内3例目発生が確認され、別紙のとおり北海道庁がプレスリリースを行いましたので、情報提供します。

ダニ媒介脳炎や重症熱性血小板減少症候群（SFTS）を含むダニ媒介感染症に関しては、ダニに咬まれない予防措置を講じるとともに、もし発症した場合には、早期に医療機関を受診し、適切な治療を受けることが重要であることを、従前より周知してきたところです。各自治体におかれましては、先日配布しました、蚊媒介感染症及びダニ媒介感染症の予防啓

発資料を活用し、ダニ媒介感染症について、改めて注意喚起をお願いします。

別紙：平成 29 年 7 月 11 日付け北海道庁プレスリリース

マダニが媒介する感染症の予防について

今般、北海道においてダニ媒介脳炎患者の発生が確認されました。

ダニ媒介脳炎患者の発生は昨年度に続き国内 3 例目（いずれも道内）です。

道内では毎年、回帰熱、ライム病を含めたマダニが媒介する感染症の発生報告があります。ダニに咬まれないよう予防措置を講じるとともに、咬まれた場合には医療機関で除去してもらいましょう。もし発熱等の症状が出た場合には、早期に医療機関を受診し適切な治療を受けることが重要です。

記

1 今般発生したダニ媒介脳炎事例の概要

・疾病名	ダニ媒介脳炎（四類感染症）
・発生届	7月11日、市立函館保健所管内の医療機関から発生届の受理 同日、函館市から当課に報告
・経過	6月中旬発症、医療機関から市立函館保健所に連絡。 明確なダニの刺咬部位は確認できないものの、医師が症状等からダニ媒介感染症を疑ったため、道立衛生研究所において検査実施。
・検査結果	6月20日及び7月3日に採取した血液により、ダニ媒介脳炎の抗体価上昇を確認。北海道大学大学院獣医学研究院の協力で行った中和抗体検査で陽性と判明。

(参考)

区 分	平成5年	平成28年	今般事例
発生届医療機関の所在地保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所
性別・年齢	女性・30歳代	男性・40歳代	男性・70歳代
感染したと推定される地域	道南圏域	不明（最近の海外・道外旅行歴なし）	調査中
その他		死亡	死亡

2 ダニ媒介感染症とは

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型のダニ（食品等に発生する「コナダニ」や、じゅうたんや寝具に発生する「ヒョウヒダニ」など住宅内に生息するダニとは種類が異なる）で、ダニ媒介感染症（ライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など）の原因となる病原体を保有していることがあり、ヒトはマダニに咬まれることでこれらの病気に感染することがあります。

3 道内のダニ媒介感染症

道内で過去に患者が確認されている主なダニ媒介感染症のは下表のとおりです。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12～15日程度	発熱（微熱であることが多い）、倦怠感、慢性遊走性紅斑、希に心筋炎・髄膜炎
回帰熱	7～10日程度	発熱（39℃以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感等
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、痙攣、髄膜炎、脳炎等

これらは、インフルエンザのように人から人に感染して広がるものではなく、水や空気などを介して伝染することはありません。

ダニ媒介脳炎は、ウイルスが混入した生乳を飲んで感染した例がヨーロッパで知られていますが、ウイルスは72℃10秒で死滅するため、殺菌処理された市販の牛乳から感染することはありません。

http://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20170713_1.pdf

独立行政法人国民生活センター

美容を目的とした「プエラリア・ミリフィカ」を含む健康食品

ー若い女性に危害が多発！安易な摂取は控えましょうー 平成 29 年 7 月 13 日

昨今、プエラリア・ミリフィカというマメ科のクズ（葛）と同属の植物の貯蔵根が原材料として配合された、バストアップやスタイルアップ等の美容を目的とした健康食品が販売されています。

PIO-NET には、プエラリア・ミリフィカを含む健康食品に関する危害情報が 2012 年度以降の 5 年間あまりで 209 件寄せられており、特に 2015 年度以降増加しています。

これらの中には消化器障害や皮膚障害といった一般の健康食品でもよくみられる危害事例のほかに、月経不順や不正出血といった、女性特有の生理作用に影響を及ぼしていると考えられる特徴的な危害事例が多く見受けられます。

PIO-NET に寄せられたプエラリア・ミリフィカを含む健康食品に関する危害情報 209 件における被害者は、ほぼ全員が女性で、年齢別にみると、20 歳代が 69 件（33%）と最も多く、次いで 40 歳代が 42 件（20%）、30 歳代が 41 件（20%）、10 歳代が 37 件（18%）となっています。また、全員がこれらの健康食品を通信販売により購入していました。危害内容は、嘔吐おうと、腹痛、下痢などの「消化器障害」や、発疹、じんましんなどの「皮膚障害」が多い中、「その他の傷病及び諸症状」に分類されるものも多く、その内容をみてみると、月経不順あるいは不正出血といった月経に関する健康被害が多くみられました。